

①マルコと呼ばれるヨハネはどんな人？

パウロとバルナバは、大飢饉にあったエルサレムに援助の品を届けに行った後、アンティオキアに戻る時にマルコを連れて帰りました(12:25)。しかし、彼らが第一伝道旅行に助手として連れて行った時に、マルコは途中でエルサレムに帰ってしまったのです(13:13)。そして、第二伝道旅行に行く際に、バルナバはマルコを連れて行きたいと思いましたが、パウロは、「自分たちから離れ、宣教と一緒に行かなかったような者は連れて行くべきではない」と考え、「意見が激しく衝突し、ついに別行動を取るようになった」(39)のです。

②パウロとバルナバの衝突から何を聞き取るか？

二人が喧嘩別れしたようなこの内容はどう受け取ればいいのか？ バルナバは「慰めの子」という意味で優しい人として知られていましたから(4:36)、自分のいところでもあったマルコにもう一度チャンスを与えようと思ったのでしょうか。では、パウロが厳し過ぎたのでしょうか？ そうも言えないと思います。この後の伝道旅行は苦労の連続の中、ヨーロッパまで福音を伝えることになる旅でした。途中で任務を放り出してしまう助手では困ると思ったのでしょうか。

こういう場合、私たちはすぐに「どちらが間違っているか」と考えがちですが、どちらも正しい場合もあるのです。バルナバはマルコのことを考え、パウロはこれから待ち構える困難な伝道のことを考えていました、どちらも大事、どちらも間違っていない。ただ、激しく衝突せず、互いに相手が考えていることを理解し合って別れられたらよかったです。しかし、これでは終わりませんでした！ 聖書は、この後、彼らが再び助け合っている様子を伝えているからです(コロサイ 4:10、Ⅱテモテ 4:11、フィレモン 24)。

信仰者でもぶつかり合うことがあります。だから神の子の救いが必要なのです！ 神様がそんな私たちを赦して下さったことを思い返し、「互いに相手を自分より優れた者と考え」(フィリピ 2:3)、相手の考えることも理解しようとして行くことが大事なのです。この衝突で伝道が二方向に広がったことも考えておいていいかもしれません。